

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホジシ ヨウインガクエン 学校法人 樟蔭学園								
フリガナ大学名称	マサカシヨウインジヨウダいがく 大阪樟蔭女子大学								
大学本部の位置	大阪府東大阪市菱屋西4丁目2番26号								
大学の目的	本学は、広く一般学科に関する知識を授けると共に、深く専門の学術技芸を教授研究して知性を磨き女性としての豊かな情操と高き品性を養成するをもって目的とする。								
新設学部等の目的	基礎的教養を基盤として、人間を理解することと地域を理解することを通じて、現代の社会が抱えている諸課題に気づき、その課題について複眼的かつ俯瞰的に捉え、また、実証的・科学的に探究することで課題の背景・要因を多面的に捉え、社会と文化の多様性を尊重し、人間理解に立脚した社会貢献を果たす意欲を持って、未来に繋がる課題の解決策を提示できる人材を養成することを目的として、学芸学部リベラルアーツ学科を設置する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	学芸学部 リベラルアーツ学科	4年	40人	— 年次人	160人	学士（リベラルアーツ）	文学関係	令和7年4月 第1年次	大阪府東大阪市 菱屋西4丁目2番 26号
	計		40	—	160				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	学芸学部 国文学科〔定員減〕 (△20) (令和7年4月) 国際英語学科〔定員減〕 (△10) (令和7年4月) 心理学科〔定員減〕 (△20) (令和7年4月) ライフプランニング学科〔定員減〕 (△20) (令和7年4月) 児童教育学部 児童教育学科〔定員減〕 (△70) (令和7年4月) 健康栄養学部 健康栄養学科〔定員減〕 (△60) (令和7年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	学芸学部 リベラルアーツ学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
		60科目	66科目	14科目	140科目				
新設学部等の名称	学芸学部 リベラルアーツ学科	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
		5人	2人	0人	0人	7人	0人 (0)	56人 (56)	
		(5)	(2)	(0)	(0)	(7)			
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5	2	0	0			7
		(5)	(2)	(0)	(0)	(7)			
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0	0	0	0			0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
		小計（a～b）	5	2	0	0			7
		(5)	(2)	(0)	(0)	(7)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0	0	0	0	0				
(0)	(0)	(0)	(0)	(0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0	0	0	0	0				
(0)	(0)	(0)	(0)	(0)					
計（a～d）	5	2	0	0	7				
(5)	(2)	(0)	(0)	(7)					
計	5	2	0	0	7	0	—		
(5)	(2)	(0)	(0)	(7)	(0)	(—)			

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数
3.75人

既

学芸学部 国文学科	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (1)	7 (8)	0 (0)	11 (11)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (1)	7 (8)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (1)	7 (8)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (1)	7 (8)		
学芸学部 国際英語学科	3 (3)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	9 (9)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)		
小計（a～b）	3 (3)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	9 (9)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	3 (3)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	9 (9)		
学芸学部 心理学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)		
小計（a～b）	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)		
学芸学部 ライフプランニング学科	4 (4)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	11 (11)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)		
小計（a～b）	4 (4)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	11 (11)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	4 (4)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	11 (11)		

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数
3.75人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数
3.75人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数
4.5人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数
5.25人

設	学芸学部 化粧ファッション学科	6 (8)	3 (3)	1 (2)	1 (1)	11 (14)	0 (0)	34 (34)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 6.75人						
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (8)	3 (3)	1 (2)	1 (1)	11 (14)	/	/							
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	小計（a～b）	6 (8)	3 (3)	1 (2)	1 (1)	11 (14)									
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	計（a～d）	6 (8)	3 (3)	1 (2)	1 (1)	11 (14)									
	児童教育学部 児童教育学科	8 (6)	8 (8)	2 (5)	0 (0)	18 (19)				1 (1)	46 (46)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 7.5人			
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (6)	5 (6)	2 (3)	0 (0)	15 (15)				/	/				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	3 (2)	0 (2)	0 (0)	3 (4)									
	小計（a～b）	8 (6)	8 (8)	2 (5)	0 (0)	18 (19)									
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	計（a～d）	8 (6)	8 (8)	2 (5)	0 (0)	18 (19)									
	健康栄養学部 健康栄養学科	7 (7)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	17 (17)							0 (0)	28 (28)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 7.5人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	16 (16)							/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)									
	小計（a～b）	7 (7)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	17 (17)									
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
計（a～d）	7 (7)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	17 (17)										
学士課程基幹教育	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	35 (35)	/							
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	/	/								
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)										
小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)										
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)										
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)										
計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)										
計	38 (38)	38 (38)	5 (9)	1 (2)	82 (87)				1 (1)	— (—)					
合 計	43 (43)	40 (40)	5 (9)	1 (2)	89 (94)				1 (1)	— (—)					
分															

職 種		専 属		そ の 他		計		
事 務 職 員		72 (80) 人		25 (25) 人		97 (105) 人		
技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
図 書 館 職 員		9 (9)		0 (0)		9 (9)		
そ の 他 の 職 員		0 (0)		1 (1)		1 (1)		
指 導 補 助 者		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計		81 (89)		26 (26)		107 (115)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	61,859.613㎡	0.00㎡	0.00㎡		61,859.613㎡		
	そ の 他	31,889.822㎡	0.00㎡	0.00㎡		31,889.822㎡		
	合 計	93,749.435㎡	0.00㎡	0.00㎡		93,749.435㎡		
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
		44,351.87㎡ (44,351.87㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)		44,351.87㎡ (44,351.87㎡)		
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	37室	教 員 研 究 室	109室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	
		冊	電 子 図 書 〔うち外国書〕	種	電 子 ジャーナル 〔うち外国書〕			
	学芸学部 リベラルアーツ学科	241,800 [39,280] (236,400 [39,250])	2,000 [236] (1,700 [236])	4,780 [2,975] (4,760 [2,970])	2,405 [2,350] (2,395 [2,340])	5,322 (4,962)	0 (0)	
	計	241,800 [39,280] (236,400 [39,250])	2,000 [236] (1,700 [236])	4,780 [2,975] (4,760 [2,970])	2,405 [2,350] (2,395 [2,340])	5,322 (4,962)	0 (0)	
ス ポー ツ 施 設 等		ス ポー ツ 施 設		講 堂		厚 生 補 導 施 設		
		0.00㎡		0.00㎡		3,511.59㎡		
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等		300 千 円	300 千 円	300 千 円	300 千 円	— 千 円
	共 同 研 究 費 等		5,500 千 円	5,500 千 円	5,500 千 円	5,500 千 円	— 千 円	— 千 円
	図 書 購 入 費	0 千 円	490 千 円	600 千 円	720 千 円	860 千 円	— 千 円	— 千 円
	設 備 購 入 費	0 千 円	1,001 千 円	300 千 円	300 千 円	300 千 円	— 千 円	— 千 円
	学 生 1 人 当 り 納 付 金		第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次
		1,605 千 円	1,325 千 円	1,325 千 円	1,325 千 円	— 千 円	— 千 円	
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要		私 立 大 学 等 経 常 費 補 助 金 , 資 産 運 用 収 入 , 雑 収 入 等						

学科単位での特定不能なため、大学全体の数

図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。

大学等の名称	大阪樟蔭女子大学								所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	
既設大学等の状況	学芸学部						0.98		大阪府東大阪市菱屋西4丁目2番26号
	国文学科	4	60	—	240	学士(国文学)	0.76	昭和24年度	
	国際英語学科	4	40	—	160	学士(国際英語学)	0.65	平成22年度	
	心理学科	4	80	—	320	学士(心理学)	1.10	平成27年度	
	ライフプランニング学科	4	60	—	240	学士(ライフプランニング)	0.81	平成19年度	
	化粧ファッション学科	4	140	—	520	学士(被服学)	1.20	昭和24年度	
	児童教育学部						0.54		
	児童教育学科	4	120	—	580	学士(児童教育学)	0.54	平成21年度	
	健康栄養学部						0.68		
	健康栄養学科	4	160	—	640	学士(健康栄養学)	0.68	平成27年度	
	人間科学研究科								
	臨床心理学専攻	2	8	—	16	修士(臨床心理学)	0.62	平成16年度	
	人間栄養学専攻	2	8	—	16	修士(人間栄養学)	0.25	平成17年度	
化粧ファッション学専攻	2	10	—	20	修士(化粧ファッション学)	0.20	平成25年度		
附属施設の概要	名称：大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻附属カウンセリングセンター 目的：臨床心理学に関する研究，臨床心理士をめざす大学院生の教育訓練，心理臨床相談の実施による地域へのサービス等 所在地：大阪府東大阪市菱屋西4丁目2番26号 設置年月：平成13年11月（平成27年4月現所在地へ移設） 規模等：面積747.88㎡								
	名称：大阪樟蔭女子大学附属幼稚園 目的：児童文化等の研究，幼児教育者および幼児研究者の養成のための教育実習施設 所在地：大阪府東大阪市菱屋西3丁目3番7号 設置年月：昭和26年4月 規模等：延床面積1,166.40㎡								

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については，専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 空欄には，「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
(学芸学部リベラルアーツ学科等)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)
(学士課程基幹教育科目)																
樟蔭基礎科目	樟蔭への誘い	樟蔭の窓	1前		1			○			1				1	オムニバス・共同(一部)
	これからの女性	女性のライフサイクル	1・2・3・4前		2			○							1	
		ジェンダーを考える	1・2・3・4後		2			○							1	
	豊かな情操	現代に生きる女性たち	1・2・3・4後		2			○							2	オムニバス
		笑いは人をつなぐ	2・3・4前		2			○							2	共同
感性の技法		2・3・4後		2			○							2	共同	
	うつくしいという体験を考える	2・3・4後		2			○							1		
	小計(7科目)	—		1	12	0		—			1	0	0	0	0	6
言語科目	コミュニケーション(日本語リテラシー)	アカデミック・スキルズA	1前		1			○							1	
		アカデミック・スキルズB	1後		1			○							1	
		新聞で学ぶ日本語A	1・2・3・4前		1				○						2	
		新聞で学ぶ日本語B	1・2・3・4後		1				○						1	
		生活の中の日本語A	2・3・4前		1				○						1	
		生活の中の日本語B	2・3・4後		1				○						2	共同
		論理トレーニング	1・2・3・4後		1				○						1	
	言語とコミュニケーション	2・3・4後		2				○						1		
	コミュニケーション(外国語)	Communicative English 1r	1・2・3・4前		1				○						1	
		Communicative English 1o	1・2・3・4後		1				○						1	
		Communicative English 2y	1・2・3・4前		1				○						1	
		Communicative English 2g	1・2・3・4後		1				○						1	
		Communicative English 3b	1・2・3・4前		1				○						1	
		Communicative English 3v	1・2・3・4後		1				○						1	
		Basic English bk	1・2・3・4前		1				○						1	
		Basic English w	1・2・3・4後		1				○						1	
		Basic English 1r	1・2・3・4前		1				○						1	
		Basic English 1o	1・2・3・4後		1				○						1	
		Basic English 2y	1・2・3・4前		1				○						1	
		Basic English 2g	1・2・3・4後		1				○						1	
		Basic English 3b	1・2・3・4前		1				○						1	
		Basic English 3v	1・2・3・4後		1				○						1	
		資格の英語A	1・2・3・4前		1				○						1	
		資格の英語B	1・2・3・4後		1				○						1	
		旅行の英語	1・2・3・4前・後		1				○						1	
		留学の英語	2・3・4前・後		1				○						1	
		接客英会話	1・2・3・4前・後		1				○						1	
ニュースの英語		2・3・4前		1				○						1		
Conversation and Fluency A	3・4前・後		1				○						1			
Conversation and Fluency B	3・4後		1				○						1			
アジアの言語・文化を知る	2・3・4前		1				○						1			
海外外国語演習A	1・2・3・4		2				○						1			
海外外国語演習B	1・2・3・4		2				○						1			
海外外国語演習C	1・2・3・4		2				○						1			
異文化演習	1・2・3・4		1				○						1			
中国語 I	1・2・3・4前		1					○					1			
中国語 II	1・2・3・4後		1					○					1			
中国語 III	2・3・4前		1					○					1			
中国語 IV	2・3・4後		1					○					1			
韓国・朝鮮語 I	1・2・3・4前		1					○					1			
韓国・朝鮮語 II	1・2・3・4後		1					○					1			
韓国・朝鮮語 III	2・3・4前		1					○					1			
韓国・朝鮮語 IV	2・3・4後		1					○					1			
ドイツ語 I	1・2・3・4前		1					○					1			
ドイツ語 II	1・2・3・4後		1					○					1			
フランス語 I	1・2・3・4前		1					○					1			
フランス語 II	1・2・3・4後		1					○					1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(学芸学部リベラルアーツ学科等)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
	スペイン語 I	1・2・3・4前			1				○							1	
	スペイン語 II	1・2・3・4後			1				○							1	
	小計 (49科目)	—		2	51	0		—			0	0	0	0	0	15	
数理情報科目	情報と社会	1前		2					○							1	
	情報処理基礎A	1前		1							○					1	
	情報処理基礎B	1後		1							○					1	
	暮らしとAI・データサイエンス	2・3・4前・後		2					○							1	
	AI・データサイエンス (データと社会)	2・3・4前			2				○							1	
	AI・データサイエンス (データ分析)	2・3・4後			2				○							1	
	数学でわかるAIのエッセンス	1・2・3・4前・後			2				○			1					
小計 (7科目)	—		6	6	0		—			1	0	0	0	0	1		
自然の理解	数学とは何か	1・2・3・4前・後			2				○			1					
	物理で考える暮らし	1・2・3・4前			2				○							1	
	化学で考える暮らし	1・2・3・4後			2				○			1				1	
	宇宙へ広がる私たちの世界	1・2・3・4後			2				○							1	
	健康の科学	1・2・3・4後			2				○							1	
	ライフステージと栄養	1・2・3・4前・後			2				○							2	
	生命の成り立ち	1・2・3・4前・後			2				○			1					
	美しい地球を創る	2・3・4前・後			2				○							2	
人文の探求	私たちはどう生きるか	1・2・3・4前・後			2				○							1	
	文学の読み方	1・2・3・4前・後			2				○			1				1	
	歴史の読み方	1・2・3・4前・後			2				○							2	オムニバス・共同 (一部)
	自己の探求	1・2・3・4後			2				○							1	
	心のしくみ	1・2・3・4前・後			2				○			1				1	
	心の健康	1・2・3・4前・後			2				○							1	
	宗教と現代	1・2・3・4後			2				○							1	
	ポップカルチャー論	1・2・3・4前・後			2				○							1	
表現するからだ、考えるからだ	2・3・4前			2				○							1		
社会への視点	日本国憲法	1・2・3・4前・後			2				○							1	
	日常生活と法	1・2・3・4前・後			2				○							1	
	家計・消費と経済	1・2・3・4前・後			2				○							1	メディア
	現代社会と生活者の視点	1・2・3・4後			2				○							1	
	子育てを考える	1・2・3・4後			2				○							1	
	地域課題とボランティア活動	1・2・3・4前・後			2				○							1	
	地球と社会の歩き方	2・3・4前・後			2				○			1				1	
	国際社会と平和	2・3・4休			2				○							1	
多様性社会を生きるとは	2・3・4前・後			2				○			1						
体験の方法	和の伝統芸道	1・2・3・4後			1											1	
	レクリエーションと健康	2・3・4後			2											1	
	運動と健康A	1・2・3・4前			1											1	※講義
	運動と健康B	1・2・3・4後			1											1	※講義
小計 (30科目)	—		0	57	0		—			4	2	0	0	0	21		
キャリア系科目	キャリア設計	1後・2前			1				○							1	
	キャリア開発	2前			1				○							1	
	キャリア研究	3前			2			○								1	
	キャリア実習A	2通			2											1	
	キャリア実習B	3通			2											1	
	キャリア実習C	4通			2											1	
小計 (6科目)	—		0	10	0		—			0	0	0	0	0	1		
学士課程基幹教育科目 合計 (99科目)		—		9	136	0		—			4	2	0	0	0	40	

教 育 課 程 等 の 概 要

(学芸学部リベラルアーツ学科等)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
(リベラルアーツ学科専攻科目)																
基礎科目	知への扉	1前	○	2			○			5	1				3	オムニバス、メディア
	知の技法	1後	○	2			○			4	1				2	オムニバス
	科学的方法の理解	1後	○	2			○			2					4	オムニバス
	小計 (3科目)	—	—	6	0	0	—	—	—	5	1	0	0	0	7	
PBL科目	実践演習基礎 (Human)	1前	○	2				○		2						
	実践演習基礎 (Society)	1後	○	2				○			2					
	人間科学実践演習 I	2前	○	2				○		1					1	共同
	地域課題実践演習 I	2後	○	2				○			2					
	人間科学実践演習 II	3前	○		2			○		2		2				共同
	地域課題実践演習 II	3後	○		2			○			2					共同
	人間科学キャリア実践演習	3後	○		2			○		2						共同
	地域課題調査実習	3前	○		2			○			2					共同
	卒業研究A	4前	○		2			○		2	2					
	卒業研究B	4後	○		2			○		2	2					
	卒業論文	4通	○		6			○		2	2					
小計 (11科目)	—	—	18	8	0	—	—	—	2	2	0	0	0	1		
人間を理解するための科目	心理学概論	1前	○	2			○			2					2	オムニバス
	心理学研究法	1前	○	2			○								1	
	心理学実験	1後	○	2					○	2					2	共同
	心理研究法演習 (面接・観察)	2前	○	2				○		1					1	
	心理調査基礎実習	2後			2				○	1					1	
	知的生産とクリティカル・シンキング	2後			2				○						1	
	脳科学とその応用	3前			2			○							1	
	消費者行動論	3前			2			○							1	
小計 (8科目)	—	—	8	8	0	—	—	—	2	0	0	0	0	6		
地域を理解するための科目	世界の中の日本	1前	○	2			○				1					
	社会とコミュニケーション	1前		1					○						1	
	家族関係論	2後		2			○								1	
	東大阪学	1後	○	2			○			1						
	文化政策学	2前		2			○								1	
	文化遺産論	3後	○		2		○				1					
	国際関係論	3前			2		○								1	
	ソーシャルデザイン	2後			2		○								1	
	行動経済学	2前			2		○								1	
小計 (9科目)	—	—	9	8	0	—	—	—	1	1	0	0	0	6		
データスキル科目	プログラミング演習 I	1後		1				○							1	
	プログラミング演習 II A	2前		1				○							1	
	プログラミング演習 II B	2後		1				○							1	
	社会調査概説	1後		2			○								1	
	社会調査の方法	2前		2			○								1	
	サイバーセキュリティ	3後		2			○								1	
	科学的思考実験	3後		1					○						1	
	基礎統計学	2前	○	2			○			1						
	データ解析の基礎	2後	○		2		○			1						
	量的データ解析実習	3前			1				○						1	
小計 (10科目)	—	—	3	12	0	—	—	—	2	0	0	0	0	4		
リベラルアーツ学科専攻科目 合計 (41科目)				—	—	44	36	0	—	5	2	0	0	0	19	
合計 (140科目)				—	—	53	172	0	—	5	2	0	0	0	56	
学位又は称号	学士 (リベラルアーツ)			学位又は学科の分野			文学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
学士課程基幹教育の必修科目9単位及び選択必修科目20単位、専攻科目の必修科目44単位及び選択必修科目4単位を含み、合計124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：48単位 (年間))							1 学年の学期区分			2期						
							1 学期の授業期間			15週						
							1 時限の授業の標準時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
(学士課程基幹教育科目)				
樟 蔭 基 礎 科 目	樟 蔭 へ の 誘 い	樟蔭の窓	<p>本科目は、樟蔭基礎科目のうち自校教育も含んだ樟蔭への誘いを担う科目です。本学が掲げる教育の目的や教育内容、そして「樟蔭美」の3つの力について概観します。「伝統を創る」「成熟した市民への一歩」「未来をデザインする」をテーマとして、本学の歴史と伝統、本学における4年間の学生生活、さらには社会生活を送る上での重要なトピックを取り上げながら、自らが“社会”を構成する一人の市民であることの認識を深めます。社会で活躍する本学の卒業生との対話などを通して、自らの未来やキャリアについて考えてもらいます。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 白川 哲郎・8 奥田 亮／1回) (共同) 第1回：講義のガイダンス</p> <p>(3 白川 哲郎・8 奥田 亮／1回) (共同) 第2回：本学における正課外の学びについて、くすのき地域協創センターのとりまとめにより、それらに参加している学生からこれまでの活動や成果などについて説明、紹介してもらう。同時に新入生へ活動の勧誘をしてもらう。</p> <p>(3 白川 哲郎・8 奥田 亮／1回) (共同) 第3回：キャリアセンターのとりまとめにより、社会で活躍する本学の卒業生からのメッセージを新入生に伝え、大学生活への手がかりとしてもらう。</p> <p>(3 白川 哲郎／4回) 第4回～第7回：1917年の学園創立から、1925年の樟蔭女子専門学校、そして戦後の教育改革の中で1949年に新制大学として誕生した時期を経て、現在に至る本学の歴史と女子の高等教育機関として歩みと特徴を概観し、講義することで、自らの大学についての認識を深め、帰属意識の向上を図る。</p> <p>(3 白川 哲郎／1回) 第8回：本学の現在と現状を講義するとともに、学長より本学が2030年に向けて掲げるグランドデザインについて説明することで、自らの大学への理解と共感を深める。</p> <p>(8 奥田 亮／4回) 第9回～第12回：現代社会において、個人や社会が抱える諸課題（たとえば、「心と身体の健康」「地球温暖化とSDGs」など）について、各年度でそれぞれトピックを選び、講義することで、社会の一員であることの自覚を促す。</p> <p>(3 白川 哲郎・8 奥田 亮／1回) (共同) 第13回：みずほ証券の協力を得て、キャリア形成に関わるワークを展開し、自らのキャリア形成に向けての展望を獲得してもらう。</p> <p>(3 白川 哲郎・8 奥田 亮／1回) (共同) 第14回：自らの未来を見据えたキャリア形成の重要性について講義するとともに、これからの大学生活におけるキャリア形成のための本学のキャリア教育についてガイダンスを行う。</p> <p>(3 白川 哲郎・8 奥田 亮／1回) (共同) 第15回：学長に対して寄せられた質問への回答を行う一方、「高い知性」と「豊かな情操」を身に付けるための“教養”の重要性を再確認する。同時に、講義のまとめを行う。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
こ れ か ら の 女 性	女性のライフサイクル		<p>本科目は、樟蔭基礎科目のうちこれからの女性をどう育成するかに関する科目です。</p> <p>女性の生涯の健康問題を身体的・精神的・社会的な観点から幅広く学習します。リプロダクティブヘルス・ライツの考え方をもちに、女性の健康課題について考えます。特にライフサイクルの重要な課題である出産育児期の女性と家族の健康支援については、親性の発達、母子関係、制度などの知識を学ぶとともに、新聞などのメディア情報を使って現代社会の問題や状況を学びます。</p>	
	ジェンダーを考える		<p>本科目は、樟蔭基礎科目のうちこれからの女性をどう育成するかに関する科目です。</p> <p>私たちの社会は身体のちがいを理由づけとしてジェンダー（社会的・文化的性別）を生み出してきました。「女性」「男性」という性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、そのような「常識」がいかにして維持・再生産されてきたのかを事例に取り上げながら考察します。ジェンダーがつくりだすものには「女らしさ」「男らしさ」だけではなく、人間関係のあり方も含まれます。家族・恋愛・結婚・パートナーシップなど、異性間のみ関係が前提とされてきた社会の問題についても考察します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	現代に生きる女性たち		<p>本科目は、樟蔭基礎科目のうちこれからの女性をどう育成するかに関する科目です。</p> <p>今を生きる女性たちを取り巻く社会状況はどのようなものであるか、その中で彼女たちがどのような生き方を選択してきたのかについて、現代に生きる女性たちの具体的な事例から学びます。つまり、具体例として挙げる彼女たちの日々の営みや人生を通して、ジェンダーや異文化などにまつわる問題点に気づくこと、そしてそれを知り学ぶことで、現代女性としてのさまざまな職業・生き方の選択肢について考えます。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(10 川野 佐江子／1回) 第1回：ガイダンスとイントロダクション</p> <p>(32 中村 圭美／7回) 第2回：現代に生きる女性：草間彌生① 第3回：現代に生きる女性：草間彌生② 第4回：現代に生きる女性：川久保玲、ヴィヴィアン・ウェストウッド、ステラ・マッカートニー 第5回：現代に生きる女性：シャネル 第6回：現代に生きる女性：ルース・バイダー・ギンズバーグ 第7回：現代に生きる女性：政治家 第8回：現代に生きる女性：山口小夜子、富川栄</p> <p>(10 川野 佐江子／7回) 第9回：女性の表象：「ワンダーウーマン」の表象～戦う女性と資本主義の表象 第10回：女性の表象：ハリウッドのインパクト①ファミリアールたち（グレース・ケリー、マリリン・モンロー、ジョディ・フォスター、エマ・ワトソン） 第11回：女性の表象：ハリウッドのインパクト②#MeToo 第12回：女性の表象：女性の身体をめぐる①ジョセフィン・ペーカー；エスニシティと「美」 第13回：女性の表象：女性の身体をめぐる②スポーツとジェンダー；女性をやめた女性たち 第14回：女性の表象：女性の身体をめぐる③社会デザインと女性性 第15回：まとめ</p>	オムニバス方式
豊かな情操	笑いは人をつなぐ		<p>本科目は、樟蔭基礎科目のうち豊かな情操をどう育むかに関する科目です。</p> <p>本学客員教授、桂かい枝師匠プロデュースによる。15回の授業は「I. 笑いの心理」「II. いろいろな笑い」「III. 小啾（こばなし）入門～人を笑わせてみよう」の3部構成で行います。「I. 笑いの心理」では笑いのメカニズム、理論、心理、精神的・肉体的効用、地域差（関東・関西）などについての総論的な講義を行います。「II. いろいろな笑い」では落語を中心に漫才、コント、狂言などのパフォーマンスを材料にして、人を笑わせるどのような特徴や仕掛けがあるかを理解します。「III. 小啾入門」では、代表的な小啾を学び笑いを分析します。その後、自分で小啾を創作してみます。14回・15回で創作小啾を実演し人を笑わせます。</p>	共同
	感性の技法		<p>本科目は、樟蔭基礎科目のうち豊かな情操をどう育むかに関する科目です。</p> <p>豊かな情操とは、日常生活の全ての場において育むことが可能です。しかし一方で、単にひとりひとりの感覚だけに任せることで完結するものではありません。より豊かな情操や感性を獲得するには、対象物への知識や理解・解釈など対峙の技法が必要となります。この授業では、映画を観る・本を読む・音楽を聴く・美術に触れるなど、感性を刺激するテーマと作品を挙げ、それらとどのように向かい合うことができるのかその技法について学びます。</p>	共同
	うつくしいという体験を考える		<p>本科目は、樟蔭基礎科目のうち豊かな情操をどう育むかに関する科目です。</p> <p>「美しい」ものは？と問われると、人・ものの外観や景色、造形物等が着想され易いが、行為や所作、機能、関係など、様々な物事のあらわれに対して私たちは「うつくしい」と感じることもあり、どの対象にそう感じられるかは人それぞれです。他者が自分とは異なる事象に「うつくしい」と感じることを知り、驚き、関心を抱き、その体験を理解することは、多様性の受容と豊かな内面の涵養にもつながるでしょう。そこでこの授業では、様々な対象や領域における「うつくしいと感じる体験」を取り上げ、受講生各々がその体験の省察を深めていくことを目指します。</p> <p>(全15回を奥田が担当、うち10回を諸研究領域からゲストスピーカーを招きます)</p>	
言語科目	アカデミック・スキルズA		<p>本科目では、大学四年間の学びで必要となる汎用的技能のうち、ライティングスキルの基礎を身につけます。</p> <p>15回の授業は、以下のような内容で総合的に構成します。</p> <p>①アカデミック・ライティングの基礎 ②生活におけるライティングスキルの重要性 ③文献検索と情報リテラシー</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(学芸学部リベラルアーツ学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ン (日本語リテラシー)	アカデミック・スキルズB		本科目では、「アカデミック・スキルズA」に引き続き、大学四年間の学びで必要となる汎用的技能のうち、口頭表現や口頭発表を実践するためのスキルのほか、グループ・ワークを通してチーム・ワークの方法を養います。 15回の授業は、以下のような内容で総合的に構成します。 ①論理的思考や問題発見・解決能力の向上 ②アカデミック・ライティングの応用としての口頭発表（プレゼンテーション等）の技法 ③社会生活で不可欠なチーム・ワーク	
	新聞で学ぶ日本語A		本科目では、言語コミュニケーションのうち日本語リテラシー修得に関して、新聞記事を深く読み、社会で起こっている事象を理解するとともに読解力・語彙力を身につけます。また、その事象に対する自分の意見をまとめ、グループで共有して他者の意見も知ります。	
	新聞で学ぶ日本語B		本科目では、言語コミュニケーションのうち日本語リテラシー修得に関して、新聞記事を深く読み、社会で起こっている事象を理解するとともに読解力・語彙力を身につけます。受講生どうしの相互評価、修正によって、文章の要点を見きわめる力、および要点を論理的な文章にまとめる力を養います。さらに、複数社の記事の比較を行うことで、分析的かつ批判的に記事を読む力を養います。	
	生活の中の日本語A		日常生活における情報伝達の手段として「書くこと」は欠かせないが、正確にわかりやすく書くことは案外難しい。本科目では、言語コミュニケーションのうち日本語リテラシー修得に関して、メール、案内、掲示、マニュアル、自己アピールなど、身近な場面を想定して、読み手の状況や受け取り方への想像力を働かせながら書くトレーニングを行います。また書いたものを受講生どうしで評価し合い、文章の改善を図るとともに、大学生活や学外の社会生活に必要な「書く力」の向上を目指します。	
	生活の中の日本語B		本科目では、言語コミュニケーションのうち日本語リテラシー修得に関して、「新聞で学ぶ日本語A」「同B」および「生活の中の日本語A」で学んだことをふまえ、総合的な実践力を養うことを目的としています。具体的には、田辺聖子文学館に取材を行い、その成果をニュースレターという形でまとめます。受講生自身がニュースレターのうち容の検討から、田辺聖子文学館への取材、ニュースレターの作成までを主体的に進めます。これらの取り組みの中で必要な文章力や口頭表現力を養います。	共同
	論理トレーニング		本科目では、言語コミュニケーションのうち日本語リテラシー修得に関して、論理的な思考を習得します。具体的には、教科書の練習問題を解きながら、まとまった短い文章を論理的に読み解き、適切な日本語を用いて、思考を論理的に表現できるなど、実践的に論理力を身に付けます。	
	言語とコミュニケーション		本科目では、言語コミュニケーションのうち日本語リテラシー修得に関して、コミュニケーションの定義、命題の意味と話者の意図、発話行為、会話の協調の原理、談話の構造、会話の構造について考えます。	
コミュニケー ション (外国語)	Communicative English 1r		英語のスピーキングに必要な機能的な表現や、会話のための最小限の文法事項を学習することにより、基礎的なスピーキング力を身につけることを目指します。日々の授業や中間・期末にてスピーキングテストを数度行い、会話力の定着を図ります。全員がしっかり声を出して授業に参加することが必要です。	
	Communicative English 1o		英語のスピーキングに必要な機能的な表現や、会話のための最小限の文法事項を学習することにより、基礎的なスピーキング力を身につけることを目指します。日々の授業や中間・期末にてスピーキングテストを数度行い、会話力の定着を図ります。全員がしっかり声を出して授業に参加することが必要です。	
	Communicative English 2y		英語のスピーキングに必要な機能的な表現や、会話のための最小限の文法事項を学習することにより、基礎的なスピーキング力を身につけることを目指します。日々の授業や中間・期末にてスピーキングテストを数度行い、会話力の定着を図ります。全員がしっかり声を出して授業に参加することが必要です。	
	Communicative English 2g		英語のスピーキングに必要な機能的な表現や、会話のための最小限の文法事項を学習することにより、基礎的なスピーキング力を身につけることを目指します。日々の授業や中間・期末にてスピーキングテストを数度行い、会話力の定着を図ります。全員がしっかり声を出して授業に参加することが必要です。	
	Communicative English 3b		英語のスピーキングに必要な機能的な表現や、会話のための最小限の文法事項を学習することにより、中級レベルのスピーキング力を身につけることを目指します。日々の授業や中間・期末にてスピーキングテストを数度行い、会話力の定着を図ります。全員がしっかり声を出して授業に参加することが必要です。	

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Communicative English 3v		英語のスピーキングに必要な機能的な表現や、会話のための最小限の文法事項を学習することにより、中級レベルのスピーキング力を身につけることを目指します。日々の授業や中間・期末にてスピーキングテストを数度行い、会話力の定着を図ります。全員がしっかりと声を出して授業に参加することが必要です。	
	Basic English bk		英語コミュニケーションのもっとも基礎となる四技能、文法や語彙を身につけることを目指します。授業では身近なトピックについて、英語で話したり、書いたりするタスク活動が中心となります。さらにリスニングや、文法の演習を通じて、正しい英語の用法を再確認し、トピックに関する語彙を増やします。	
	Basic English w		英語コミュニケーションのもっとも基礎となる四技能、文法や語彙を身につけることを目指します。授業では身近なトピックについて、英語で話したり、書いたりするタスク活動が中心となります。さらにリスニングや、文法の演習を通じて、正しい英語の用法を再確認し、トピックに関する語彙を増やします。	
	Basic English 1r		リスニングやリーディングのreceptive skills (受動技能) を使いながら、スピーキングやライティングのproductive skills (アウトプット技能) の向上を目指します。日常の英語コミュニケーションに必要な語彙・文法の基礎を身につけます。授業ではペアワークやクラス全体での発話を重視するので、全員がしっかりと声を出して授業に参加することが必要です。小テストは第3回から第12回授業で全10回行い、最終テストは口頭での発表形式で行います。	
	Basic English 1o		リスニングやリーディングのreceptive skills (受動技能) を使いながら、スピーキングやライティングのproductive skills (アウトプット技能) の向上を目指します。日常の英語コミュニケーションに必要な基本的な語彙・文法を身につけます。授業ではペアワークやクラス全体での発話を重視するので、全員がしっかりと声を出して授業に参加することが必要です。小テストは第3回から第12回授業で全10回行い、最終テストは口頭での発表形式で行います。	
	Basic English 2y		リスニングやリーディングのreceptive skills (受動技能) を使いながら、スピーキングやライティングのproductive skills (アウトプット技能) の向上を目指します。日常の英語コミュニケーションに必要な語彙・文法を身につけ応用ができるように練習します。授業ではペアワークやクラス全体での発話を重視するので、全員がしっかりと声を出して授業に参加することが必要です。小テストは第3回から第12回授業で全10回行い、最終テストは口頭での発表形式で行います。	
	Basic English 2g		リスニングやリーディングのreceptive skills (受動技能) を使いながら、スピーキングやライティングのproductive skills (アウトプット技能) の向上を目指します。日常の英語コミュニケーションに必要な語彙・文法を身につけ応用ができるように練習します。授業ではペアワークやクラス全体での発話を重視するので、全員がしっかりと声を出して授業に参加することが必要です。小テストは第3回から第12回授業で全10回行い、最終テストは口頭での発表形式で行います。	
	Basic English 3b		リスニングやリーディングのreceptive skills (受動技能) を使いながら、スピーキングやライティングのproductive skills (アウトプット技能) の向上を目指します。英語コミュニケーションに必要な中級レベルの語彙・文法を身につけます。授業ではペアワークやクラス全体での発話を重視するので、全員がしっかりと声を出して授業に参加することが必要です。小テストは第3回から第12回授業で全10回行い、最終テストは口頭での発表形式で行います。	
	Basic English 3v		リスニングやリーディングのreceptive skills (受動技能) を使いながら、スピーキングやライティングのproductive skills (アウトプット技能) の向上を目指します。英語コミュニケーションに必要な中級レベルの語彙・文法を身につけます。授業ではペアワークやクラス全体での発話を重視するので、全員がしっかりと声を出して授業に参加することが必要です。小テストは第3回から第12回授業で全10回行い、最終テストは口頭での発表形式で行います。	
	資格の英語A		英検準2級合格レベルの英語力を身につけることを目指します。語彙力の増やし方、英検形式の問題を解きながら、リスニング・リーディングのコツ、ライティングの取り組み方など自主学習につながる様々なストラテジーを授業で紹介しします。また、授業ではペアワーク・グループワークを用いて実践的な英語のアウトプット力をつけるため、積極的な参加が必要です。	
	資格の英語B		英検準2級合格レベルの英語力を身につけることを目指します。語彙力の増やし方、英検形式の問題を解きながら、リスニング・リーディングのコツ、ライティングの取り組み方など自主学習につながる様々なストラテジーを授業で紹介しします。また、授業ではペアワーク・グループワークを用いて実践的な英語のアウトプット力をつけるため、積極的な参加が必要です。	

授 業 科 目 の 概 要

(学芸学部リベラルアーツ学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	旅行の英語		観光・海外旅行における様々な場面や状況で使われる基礎的な英語の語彙や表現を学びます。コミュニケーション活動を定着させるリスニングや会話の練習を通して、英語表現を聞き取ったり話したりできる実践的な英語力を養います。そして、不安を感じることなく海外旅行でき、積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を育成します。	
	留学の英語		とくに英語圏へ留学する際の、出発から帰国までに出会うと予想されるさまざまな場面における英語コミュニケーションをとりあげ、現地でのコミュニケーションをよりスムーズにし、実り豊かな学習体験を通して海外留学を成功させるために必要な英語語彙、文法、表現を身につけることを目指します。それと同時に、海外渡航や滞在に関する実践的な知識、また英語圏の国々の文化についての知識を身につけます。	
	接客英会話		インバウンド需要の拡大により、ホスピタリティー・インダストリー（接客業）においても外国人観光客への対応が迫られています。この授業では、ホテル、空港、レストランなどの接客業において相手をもてなす気持ちを伝えるための英語表現を、ロールプレイやペアワークを通じて実践的に身につけることを目標とします。	
	ニュースの英語		ニュースで使われる英語について、ニュース映像のリスニング、記事の読解などを通して英語の4技能を総合的に高め、語彙力を補強し、実践的な英語運用能力を習得することを目指します。同時に、グローバル化する世界で起きている様々な事柄に視野を広げ、それらを理解し、さらに英語で自分の意見を表現できるようになることを目標とします。	
	Conversation and Fluency A		英語のスピーキングに必要な機能的な表現や、やや複雑な会話を行うための文法事項・語彙などを学習することにより、中級～上級レベルのスピーキング力を身につけ自由に会話が開発できるようになることを目指します。日々の授業や中間・期末にてスピーキングテストを数度行い、会話力の定着を図ります。全員がしっかり声を出して授業に参加することが必要です。	
	Conversation and Fluency B		英語のスピーキングに必要な機能的な表現や、やや複雑な会話を行うための文法事項・語彙などを学習することにより、中級～上級レベルのスピーキング力を身につけ自由に会話が開発できるようになることを目指します。日々の授業や中間・期末にてスピーキングテストを数度行い、会話力の定着を図ります。全員がしっかり声を出して授業に参加することが必要です。	
	アジアの言語・文化を知る		この授業では、日本の周辺国家であるアジアの国々の言語や地理、歴史、政治、経済、文化の特徴について解説した上で、特にベトナム語の発音、あいさつや自己紹介の表現、基本構文や疑問詞を使った簡単な会話文を学びます。同時に、画像やDVD教材を使った学習を通して、ベトナムの社会と文化についての理解も深めます。	
	海外外国語演習A		本学が提携あるいは協力を要請した海外の大学等における外国語研修を、「海外外国語演習＊」の単位として認定します。	
	海外外国語演習B		本学が提携あるいは協力を要請した海外の大学等における外国語研修を、「海外外国語演習＊」の単位として認定します。	
	海外外国語演習C		本学が提携あるいは協力を要請した海外の大学等における外国語研修を、「海外外国語演習＊」の単位として認定します。	
	異文化演習		本学が提携あるいは協力を要請した海外の大学等における異文化研修を、「異文化演習」の単位として認定します。	
	中国語 I		中国語の発音と基礎文法を習得し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことを目標とします。中国語の学習で一番大切なのは発音だと言われており、多くの練習を通して発音を定着させます。また、中国語の4技能（リスニング力・スピーキング力・リーディング力・ライティング力）の基礎を身につけ、基本的な表現を繰り返し練習することによって、自己紹介・挨拶・買い物・願望・約束などについて中国語でコミュニケーションをとれるようになります。	

授 業 科 目 の 概 要

(学芸学部リベラルアーツ科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	中国語Ⅱ		中国語の発音と基礎文法を習得し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことを目標とします。中国語の学習で一番大切なのは発音だと言われており、多くの練習を通して発音を定着させます。また、中国語の4技能(リスニング力・スピーキング力・リーディング力・ライティング力)の基礎を身につけ、基本的な表現を繰り返し練習することによって、自己紹介・挨拶・買い物・願望・約束などについて中国語でコミュニケーションをとれるようになります。	
	中国語Ⅲ		中国語の初級～中級レベルのコミュニケーション能力を養うことを目標とします。中国語の4技能(リスニング力・スピーキング力・リーディング力・ライティング力)をさらに強化し、中国語で自由にコミュニケーションをとれるようになることを目指します。	
	中国語Ⅳ		中国語の初級～中級レベルのコミュニケーション能力を養うことを目標とします。中国語の4技能(リスニング力・スピーキング力・リーディング力・ライティング力)をさらに強化し、中国語で自由にコミュニケーションをとれるようになることを目指します。	
	韓国・朝鮮語Ⅰ		韓国・朝鮮語の基礎的なコミュニケーション能力を養うことを目標とします。ハングル文字の構成を理解し正確な発音ができるようにします。また、韓国・朝鮮語の4技能(リスニング力・スピーキング力・リーディング力・ライティング力)の基礎を身につけ、基本的な表現を繰り返し練習することで、自己紹介、挨拶、日付、曜日、時間など日常会話に必要な表現を習得することを目指します。	
	韓国・朝鮮語Ⅱ		韓国・朝鮮語の基礎的なコミュニケーション能力を養うことを目標とします。ハングル文字の構成を理解し正確な発音ができるようにします。また、韓国・朝鮮語の4技能(リスニング力・スピーキング力・リーディング力・ライティング力)の基礎を身につけ、基本的な表現を繰り返し練習することで、自己紹介、挨拶、日付、曜日、時間など日常会話に必要な表現を習得することを目指します。	
	韓国・朝鮮語Ⅲ		韓国・朝鮮語の初級～中級レベルのコミュニケーション能力を養うことを目標とします。韓国・朝鮮語の4技能(リスニング力・スピーキング力・リーディング力・ライティング力)をさらに強化します。また、旅行など現地での滞在に必要な表現を身につけ、自分のことを伝え他者について質問する練習を通して、韓国・朝鮮語で自由にコミュニケーションをとれるようになることを目指します。	
	韓国・朝鮮語Ⅳ		韓国・朝鮮語の初級～中級レベルのコミュニケーション能力を養うことを目標とします。韓国・朝鮮語の4技能(リスニング力・スピーキング力・リーディング力・ライティング力)をさらに強化します。また、旅行など現地での滞在に必要な表現を身につけ、自分のことを伝え他者について質問する練習を通して、韓国・朝鮮語で自由にコミュニケーションをとれるようになることを目指します。	
	ドイツ語Ⅰ		ドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力を養うことを目標とします。動詞の人称変化、名詞の格変化などドイツ語会話に必要な最小限の文法を学習し、会話のエクササイズを通してドイツ語に慣れることを重視します。基本的な表現を繰り返し練習することでドイツ語の4技能の基礎を身につけ、日常会話に必要な実践的な表現を習得することを目指します。	
	ドイツ語Ⅱ		ドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力を養うことを目標とします。動詞の人称変化、名詞の格変化などドイツ語会話に必要な最小限の文法を学習し、会話のエクササイズを通してドイツ語に慣れることを重視します。基本的な表現を繰り返し練習することでドイツ語の4技能の基礎を身につけ、日常会話に必要な実践的な表現を習得することを目指します。	
	フランス語Ⅰ		フランス語の基礎的なコミュニケーション能力を養うことを目標とします。綴り字と発音の関係、表記法、初級文法や基本的な語彙・表現などの学習を含めてフランス語の4技能の基礎を身につけ、日常会話に必要な実践的な表現を習得することを目指します。また、言語体系を身につけるだけでなく、フランス文化の様々な側面に触れて理解を深めます。	
	フランス語Ⅱ		フランス語の基礎的なコミュニケーション能力を養うことを目標とします。綴り字と発音の関係、表記法、初級文法や基本的な語彙・表現などの学習を含めてフランス語の4技能の基礎を身につけ、日常会話に必要な実践的な表現を習得することを目指します。また、言語体系を身につけるだけでなく、フランス文化の様々な側面に触れて理解を深めます。	
	スペイン語Ⅰ		スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力を養うことを目標とします。スペイン語は母語話者数・学習者数ともに世界有数の言語です。この授業ではスペイン語の4技能の基礎を身につけ、日常会話に必要な実践的な表現を習得することを目指します。また、スペイン語圏の歴史・文化・社会の様々な側面に触れて理解を深めます。	
	スペイン語Ⅱ		スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力を養うことを目標とします。スペイン語は母語話者数・学習者数ともに世界有数の言語です。この授業ではスペイン語の4技能の基礎を身につけ、日常会話に必要な実践的な表現を習得することを目指します。また、スペイン語圏の歴史・文化・社会の様々な側面に触れて理解を深めます。	

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
数理情報科目	情報リテラシー	情報と社会	情報の中に含まれる意味に留意し、いかに情報と知識が人間に対して有意で、無形であるが有形の事物と同様に扱うことができるかを明らかにします。さらには、人間社会の発展と情報の関係、ならびに今日の情報技術について考察し、これらが社会にいかに大きな影響を与えてきたかを紹介します。また、特に近年問題となりつつある、情報化が社会に与える「光」と「影」の部分に着目して講義を行います。 また本科目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に則した本学の『AI・データサイエンス教育プログラム』の修了要件科目です。	
		情報処理基礎A	本科目では、近年の情報化社会に生活する上で不可欠となる情報リテラシーを修得します。具体的には、文書作成（Word）、表計算（Excel）、プレゼンテーション（PowerPoint）を基本レベルから順番に習得します。また、セキュリティと情報モラルの習得も行います。 また本科目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」及び「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に則した本学の『AI・データサイエンス教育プログラム』の修了要件科目です。	
		情報処理基礎B	本科目では、近年の情報化社会に生活する上で不可欠となる情報リテラシーを修得します。具体的には、データを適切に読み解き、集計し、適切なグラフ表現をするスキルの習得と、Excel基本操作の復習、応用機能の習得、そしてそれら分析結果を効果的に表現していきます。 また本科目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」及び「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に則した本学の『AI・データサイエンス教育プログラム』の修了要件科目です。	
		暮らしとAI・データサイエンス	本科目では、近年の情報化社会に生活する上で不可欠となる情報リテラシーを修得するために、数理・データサイエンス・AIの全体像を把握し、データ分析の基礎を身につけることを目指します。具体的には、社会におけるデータ・AIとの関わりを習得します。統計の基礎的な考えを習得し、統計局のデータを用いてデータを分析して発表資料の作成を行います。 また本科目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」及び「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に則した本学の『AI・データサイエンス教育プログラム』の修了要件科目です。	
		AI・データサイエンス（データと社会）	これまで社会の中でAIは大きく変化を遂げてきました。AIが歴史の中でどのように変遷を遂げてきたのかを理解し、今後AIがよりよい形で社会の中で受け入れられるために配慮すべき点も併せて理解します。そしてAI技術を活用し、課題解決に繋げることでできる力を身につけます。また、ビッグデータの収集、加工、活用までの一連を理解する。ビッグデータに対してはデータ分析にとどまらず、プログラミングの基礎技術やアルゴリズムの知識を身につけます。 また本科目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に則した本学の『AI・データサイエンス教育プログラム』の修了要件科目です。	
		AI・データサイエンス（データ分析）	データ分析の進め方を理解し、データを観察、分析、可視化できる力を身につけます。まず、クロス集計・ヒストグラム・散布図を中心に使用して、データ観察ができるようにします。次にさまざまな回帰分析による分析を行います。そして、ソート処理・サンプリング処理・クレンジング処理等を学習し、データを加工する技術を身につけます。最終的に各種グラフでデータを可視化できるようにします。また、データの収集から運用までの一連の流れに関して、統計学を理解する上で必要な確率・微分積分・各種関数をはじめとした数学的観点から習得します。 また本科目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に則した本学の『AI・データサイエンス教育プログラム』の修了要件科目です。	
		数学でわかるAIのエッセンス	AIによる機械学習は、大量のデータによって機械がみずから学習し、分類や予測などのタスクを行うために生かされ、日常生活でも当たり前のように使われるようになってきました。本科目では、AIについて詳しくない、これから触れ始めるという人に向けて、平易な数学の知識の範囲で、機械学習の基礎的な知識について学びます。	
	樟蔭教養科目	自然の理解	数学とは何か	本科目は、樟蔭教養科目のうち、自然の理解を促す科目です。数学における思考方法はあらゆる分野に有用であり、特に近年重要視されているデータサイエンスと正しく向き合うためには、数学の素養が必須といえます。本科目では、数学に苦手意識のある学生向けに数学とはどのような学問なのかということを知り、数学の考え方や使い方を身につけることを目的とします。

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	物理で考える暮らし		本科目は、樟蔭教養科目のうち、自然の理解を促す科目です。電気と電気製品は、私たちの暮らしに欠かせないものになっていますが、発電の仕組みや電気製品がどのように働いているのかは、物理学を知ることによって理解できます。また、天体の運動をもとに暦は作られており、雨雲レーダーやスピードガン、エコー検査には「ドップラー効果」が利用されています。車の運転には、摩擦や遠心力などの知識があると安全です。以上のような具体例を挙げて、本科目では、物理学が解き明かす、暮らしの中の様々な技術を理解します。	
	化学で考える暮らし		本科目は、樟蔭教養科目のうち、自然の理解を促す科目です。私たちの暮らしは、化学の発展により便利で快適になりました。本科目では、私たちの身近なファッション、フード、インテリアに関連する暮らしの中の化学に目を向け、日常の中にあるなぜ？を理解する力を修得します。また、Society 5.0に向かう社会の中で変わりゆく暮らしを想像し、化学の視点から社会課題や豊かな暮らしについて考えます。	
	宇宙へ広がる私たちの世界		本科目は、樟蔭教養科目のうち、自然の理解を促す科目です。人類は、この地球を離れて生存することはできませんが、外の世界にも興味を持ち、宇宙へ進出してきました。月へのアポロ計画、ISSでの宇宙実験室、はやぶさ2による生命の起源に迫る小惑星探査と進み、今、改めて月面探査と火星へのミッションが計画されています。また、多くの人工衛星（気象、放送、GPS、・・・）が私たちの生活を支えています。こうした宇宙技術の発展の中で、私たちは宇宙をどのように理解し、利用しようとしているのか、そこにある課題や問題点なども併せて考察します。	
	ライフステージと栄養		本科目は、樟蔭教養科目のうち、自然の理解を促す科目です。生涯にわたり心身ともに健康に過ごすことができるよう、各ライフステージの栄養と健康についての知識と自分の食生活を自己管理するための知識を理解します。そして、生涯を通じて社会（家庭や地域）で正しい食生活を実践できる力を身につけ、社会生活をおくるうえでの課題解決能力を身につけます。各ライフステージにおける栄養特性や食生活の特徴について把握し、現在および今後の食生活の在り方について考察します。	
	生命の成り立ち		本科目は、樟蔭教養科目のうち、自然の理解を促す科目です。地球上の生命はわれわれヒトを含め、基本的にはすべて同じしくみで成り立っています。これは生命が単一の共通祖先に由来することを意味します。一方で、地球の歴史の中で生物は進化し、現在みられるような多様性が成り立っています。このような「共通性」と「多様性」の観点から生命の成り立ちをとらえます。	
	美しい地球を創る		本科目は、樟蔭教養科目のうち、自然の理解を促す科目です。まず「環境とは何か」から始めて過去の環境問題について取り上げていきます。それらの原因はどのように考えられ、どのような対処がなされたのか、また対処を妨げたものがあつたのであればそれは何か、さらに過去の環境問題を踏まえて現代の環境問題を議論します。何が原因でどのような対処が可能か。それは時として「専門家」や世論が決めるほど単純ではありません。よりよい環境問題への対処とはどのようなものか考察していきます。	
人文の探求	私たちはどう生きるか		本科目は、樟蔭教養科目のうち、人文の探究を促す科目です。現代の私たちを取り巻く状況は複雑化し、問題も多様化しています。私たちは生きていく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指しています。本科目では、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考察します。この講義では、このような哲学という知のいとなみに関心はあるけれど、具体的にどのように考えたらよいかよくわからない初学者のために、哲学の代表的な問題を取り上げ、具体的な考察を通して、哲学的に考える方法を学びます。	
	文学の読み方		本科目は、樟蔭教養科目のうち、人文の探究を促す科目です。講義では、まず、世界における文字と文学の発生を辿りながら、日本の文学がどのように発展してきたのかを概観します。文学は言葉の芸術です。そのため文学作品の言葉は正確だけでなく、美しさや表現の面白さが重要になってきます。古典から現代にいたる様々な文学作品を読むことを通して、美しい四季の光景や様々な心の風景を描く文学の豊穡な言葉（古語から大阪弁まで）を学んでほしいと思います。授業では、本学の卒業生で作家の田辺聖子さんが分かりやすく古典を紹介した『文車日記—私の古典散歩—』や現代小説、樟蔭の思い出を描いた自伝小説や大阪弁にまつわるエッセイを教材に用いる予定です。大先輩の田辺さんの本を手掛かりにして、さまざまな文学の読み方を学びます。	
	歴史の読み方		本科目は、樟蔭教養科目のうち、人文の探究を促す科目です。よく知っていると思っている歴史的事象についても、さまざまな視点から検討することで、いわゆる「常識」とは異なる姿が見えてくる場合があります。授業では、日本史、とりわけ中世史に関わるいくつかの歴史的事象について、歴史学のみならず、考古学や民俗学・人類学・文学など隣接する諸科学が明らかにしてきた事実を踏まえながら、史・資料に基づき“読み直し”てみます。	

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	自己の探求		<p>本科目は、樟蔭教養科目のうち、人文の探究を促す科目です。「自己」は心理学における研究テーマの一つであり、とりわけ臨床心理学は自己の探求の蓄積によって成り立ち、自己の心に徹底的に向き合う営み、「私」の心理学とも言うべき学問です。授業では、このような心理学・臨床心理学の知見を学ぶとともに、自らにも「私」とは何かという問いを向け、他者に対する適切な配慮にもつながる自己実現（自分になること）への取り組みを理解します。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 奥田 亮・16 坂田 浩之/1回) (共同) 第1回：イントロダクション 「私」とは何かという問いを自分に向けてみる：Who am I</p> <p>(8 奥田 亮/7回) 第2回：様々な「私」と唯一の「私」 多面的な自己とI (主我) 第3回：「私」に気付く時 me (客我) の形成 第4回：「私」への意識と他者 私の中の他者たち 第5回：前半のまとめ①：中間課題① 第10回：「私」が意識しない「私」 無意識について 第11回：「私」の深層の探求 ある女性の事例から 第12回：「私」の適応と統合 私たちは自分になじむように世界を意味づけている</p> <p>(16 坂田 浩之/7回) 第6回：「私」の性格① 性格理論と性格テストを通して個性を客観的にとらえる 第7回：「私」の性格② 「私」の主な心の働きと劣等な心の働き 第8回：「私」の発展と「自己実現」 夢分析を通して潜在的な「私」と関わる 第9回：前半のまとめ②：中間課題② 第13回：物語から「私」を振り返る① 思春期と「私」の変化 第14回：物語から「私」を振り返る② 思い込みを離れて「私」と他者を受け容れる 第15回：今までの「私」を振り返り、これからの「私」を考える 自己実現に真摯に取り組むために</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	心のしくみ		<p>本科目は、樟蔭教養科目のうち、人文の探究を促す科目です。人間が最も興味をひかれる対象は人間であり、その人間を科学的に扱う学問が心理学です。人間は科学的に全てが割り切れるものではないが、現象の解明には科学的な手法が必要とされています。本授業では、人間理解の科学としての心理学について、その基礎的部分を概説します。講義という枠にとらわれず、学生自身が「考える」授業として、[発言・相談・体験]する時間を大事にします。</p>	
	心の健康		<p>本科目は、樟蔭教養科目のうち、人文の探究を促す科目です。ストレスとうまくつき合うためには、ストレスを受けにくくなることと、受けたストレスを上手に解消する技術を身につけることの2点が重要となります。そのためにまずこころと体の関わりについての理解を深め、次にストレスを増幅させる要因を学び、最終的に種々のストレスマネジメント技法を身につけてもらいます。</p>	
	宗教と現代		<p>本科目は、樟蔭教養科目のうち、人文の探究を促す科目です。私たちの多くは「宗教」に対して矛盾したような態度を持っています。「日本人は無宗教である」と言われもするし、そう自覚している人は少なくありません。実際、私たちは外国人から「あなたの宗教(信仰)は何ですか?」と問われると、答えに窮してしまいます。それどころか、宗教的な事柄にはあまり関わりたくない、深く考えたくないというのが実情でしょう。その一方で、私たちは「聖地」だの「神話」だの「霊」だのといったものに強く惹かれているし、初詣やクリスマスといった宗教行事へ積極的に参与もしています。</p> <p>この講義では、私たち自身を取り巻く宗教に関する諸問題から、私たちに理解不能のように見える異文化の宗教・信仰に至るまで、様々な宗教現象をとりあげて、それらを宗教研究が用いる概念や蓄積されてきた成果と関連付けて「読み解き」、私たち自身が「宗教」と関わりあっていることの意味や意義を考察します。</p>	
	ポップカルチャー論		<p>本科目は、樟蔭教養科目のうち、人文の探究を促す科目です。私たちの日常生活の営みの中に当たり前のように存在する様々な題材を取り上げ、現代社会の文化的諸相を学びます。具体的には、どのようにポップカルチャーが成立したかということから始めます。次にそれを踏まえ、ファッション、ジェンダー、メディア表象などから身近な話題をとりあげ、それらと消費社会論やポストモダン文化との関連について考察し、文化やそれを創り上げる社会の権力構造について検討します。</p>	
	表現するからだ、考えるからだ		<p>本科目は、樟蔭教養科目のうち、人文の探究を促す科目です。全ての人が持っていると言われる「身体」。人は社会の中で「身体」を通して自分を表現し、他者を理解します。その意味で「身体」とは自分と社会をつなぐツールです。本科目では、「身体とは何か」をベースに「身体で表現する」「身体を表現する」とはどういうことなのかを、さまざまな現代的コンテンツを通して学び、身体論あるいは身体表象論の立場で考察します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
社会への視点	日本国憲法		本科目は、樟蔭教養科目のうち、社会への視点を促す科目です。現行の憲法は2025年、その施行から78年を迎えます。わが国の憲法は制定されてから一度も改正されておらず、今後改憲へ向けて議論が深まっていくことになるでしょう。国民投票が実施されれば、私たちは日本国民として、一有権者として憲法改正の是非を問われる立場になります。「別に憲法なんて知らなくても。憲法は必要ない。」などとはもう言えません。そこで講義では、過去の憲法を紐解き、現行の憲法を学んだ上で、これからの憲法のあり方について解説します。	
	日常生活と法		本科目は、樟蔭教養科目のうち、社会への視点を促す科目です。大学に通う、物を買う、交通事故に遭う、就職する、結婚する、出産・子育てをする…など、大学生であるみなさんが経験している日常生活や、またこれから訪れるライフイベントは法に基づいています。そのため、法はあらゆる場面で問題解決のための「魔法のカギ」となります。法を知っていれば、さまざまなトラブルを予測・回避することができるし、またトラブルが起きた場合、法に基づいてそれを解決することもできます。すなわち法は、自分の取るべき行動のガイドラインとなります。そこで授業では、女性のライフイベントごとに法律がどのように関わっているのかについて身近な事例を取り上げて解説します。なおICTを活用します。	
	家計・消費と経済		本科目は、樟蔭教養科目のうち、社会への視点を促す科目です。本科目では、消費者視点から家計と現代経済社会の関係性を考察します。そこで、経済システムの転換と問題について、歴史的背景から現在に到るまでの状況を踏まえつつ複眼的視点で要因分析をします。	
	現代社会と生活者の視点		本科目は、樟蔭教養科目のうち、社会への視点を促す科目です。大学生になると、一人の消費者として本格的に消費生活を始めることとなります。このことは、受動的に商品やサービスを購入するだけでなく、消費行動をとることによって今後の社会のあり方を担っていく一員となることをも意味しています。本科目では、消費者として知っておくべき様々な問題、課題について学ぶことで、自分で考えて行動に移す「自立した消費者」になることをめざすとともに、持続可能な社会を作っていくために我々がとるべき行動について考えるきっかけとして欲しいと思います。	
	子育てを考える		本科目は、樟蔭教養科目のうち、社会への視点を促す科目です。子どもの健やかな成長発達に大きな影響をもたらす家庭と学校での課題とそこでの支援について学びます。現代の家庭、保育所、幼稚園、学校が提供する子育て支援とその課題について理解し、子ども及び保護者に対する支援方法について学ぶことを通して、子育てについて考えます。	
	地域課題とボランティア活動		本科目は、樟蔭教養科目のうち、社会への視点を促す科目です。授業の前半は、地域社会が直面している課題について、国際化の進展、少子高齢化と人口減少などいくつかの論点から考察します。後半は、ボランティア活動が持つ意義と地域課題の解決にむけた事例について考えます。最後に授業中に提示されたテーマに沿って各自がレポートを作成します。	
	地球と社会の歩き方		本科目は、樟蔭教養科目のうち、社会への視点を促す科目です。この授業では、空間や場所といった地理学的視点から、世界や社会をとらえ、考える方法を習得していきます。授業前半では地理学の視点、方法、概を具体例を挙げながら紹介します。授業後半はは様々な地域の形成過程を地理学的視点から読み解き、私たちがそこにどうかかわっていくべきかを考えていきます。	
	国際社会と平和		本科目は、樟蔭教養科目のうち、社会への視点を促す科目です。紛争によって多くの市民が命を奪われ、大量の難民が故郷を追われています。一方7億人以上の人々が極度の貧困状態にあり、貧しさのために多くの命が奪われています。この授業では、これらの問題と私たちのつながりについて学び、その解決のために私たちができることは何かを考えていきます。	
	多様性社会を生きるとは		本科目は、樟蔭教養科目のうち、社会への視点を促す科目です。社会を構成する人々の経験を作り上げる様々な要素に注目しながら、その経験や存在の多様性について考えます。前半は私たちがどのように現実を作り上げていて、かつ人という存在を差異化しているのか、様々な現象やまなざしの在り方についての知見を確認します。そのうえで文化やジェンダーにまつわる具体的な事例や、私たちが暮らす大阪での事例を踏まえて考察を深めます。授業計画に基づいて視聴覚資料なども使いながら、実証的に授業を進めます。また具体的な事案を取り上げながら、様々な視点から議論を行います。受講前とは異なった形で多角的に社会を見て、理解できるようになることを目指します。	
体験の方法	和の伝統芸道		本科目は、樟蔭教養科目のうち、体験の方法を実践を含んで学ぶ科目です。茶道や花道などのさまざまな日本の伝統的な芸術について、知識と理解を深めます。それぞれの文化について、文化の背景にある思考や歴史までを深く知り、時にその体験を踏まえながら、日本の伝統美について考えます。	

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	レクリエーションと健康		本科目は、樟蔭教養科目のうち、体験の方法を実践を含んで学ぶ科目です。 レクリエーションとしての遊びやスポーツは、単なる個人的な楽しみをはるかに超えて、社会とのつながりを強く持つようになってきました。それゆえに、健康産業等と結びつき、人々の生活の中に浸透してきています。その一方で、それらの活動の本質を揺るがすような問題も生じてきています。これらの社会的問題を解説したうえで、望ましいレクリエーションと健康の関係を一緒に考えていきます。	
	運動と健康A		本科目は、樟蔭教養科目のうち、体験の方法を実践を含んで学ぶ科目です。 授業は講義と実習からなるが、Aの講義ではまず、健康・体力の捉え方、現代社会における健康阻害の問題など基礎的なところを学習し、実習では、①体力レベルの維持、②健康的な生活への動機づけの促進、③「生涯スポーツ」実践のための基礎的技術の習得をねらいとして、いくつかの運動・スポーツ種目を実習します。	講義：8時間 実習：22時間
	運動と健康B		本科目は、樟蔭教養科目のうち、体験の方法を実践を含んで学ぶ科目です。 授業は講義と実習からなるが、Bの講義では、運動の生理的メカニズムと目的に合った運動プログラムの作り方、加齢に伴う体力変化、運動の習慣化・生活化などについて理解を深めます。実習では、①体力レベルの維持、②健康的な生活への動機づけの促進、③「生涯スポーツ」実践のための基礎的技術の習得をねらいとして、いくつかの運動・スポーツ種目を実習します。	講義：8時間 実習：22時間
キャリア系科目	キャリア設計		本科目は、樟蔭教養科目のうち、キャリアに関する科目です。 キャリアデザイン（キャリア設計）とは、自分自身の人生について自分が主体となって構想し、実現に向けての設計図を描いていくことをいいます。本科目はキャリアデザインを行う中でも、特に、自己理解を深め、近い将来、働くことについて考える授業です。本科目では、キャリアデザインを行うために、まず、自分の強み、価値観、興味・関心を明らかにし、自己理解を深めることから始めます。次に、自分自身を他者に表現することを通して、自身の考えや意見を他者にわかりやすく伝える力を身につけていきます。さらに、他者の話を丁寧に聴く力を身につけ、社会で働く人にインタビュー（キャリアインタビュー）を行い、働くことについて調査し、自分が将来働くことをイメージします。また、キャリアインタビューを通して得た情報や気づいたことについて発表用資料としてまとめることから、社会で働くために必要とされる能力や学生時代に身につけておくべき能力を明らかにすることを目指します。	
	キャリア開発		本科目は、樟蔭教養科目のうち、キャリアに関する科目です。 本科目は、将来、社会で働くことに焦点を定め、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力といった、いわゆる基礎的・汎用的能力の向上を目指すものです。本科目では、社会で働く上でのルールや新卒学生等を取り巻く社会環境について理解を深めていきます。また、時事問題について調査・分析を行い、発表資料を作成することから課題対応能力を身につけることを目指します。さらに、本科目で学習した内容を踏まえて、大学時代を中心としたキャリアプランを考えることで、将来ビジョンの意識づけとキャリアプラン能力の向上を目指す学習を行います。	
	キャリア研究		本科目は、樟蔭教養科目のうち、キャリアに関する科目です。 本科目は、将来働くことをイメージしながら、就職活動で求められる考え方やスキルについて講義と課題作成を通して学習します。具体的には、キャリアデザインや就職活動を行う上で必要となる自己理解の方法や業界研究・企業研究といった仕事理解、就職活動のマナーなどについて実践的に学習します。また、大学生を取り巻く就職環境の理解やキャリア理論などの学習を通して、キャリアを主体的にデザインするための学習を行います。	
	キャリア実習A		本科目は、樟蔭教養科目のうち、キャリアに関する科目です。 ・就業体験型 本科目は企業、行政機関、NPOなど実社会での2週間程度の就業体験と事前授業、事後授業、レポートの作成、発表などを中心として展開される授業です。就業体験の事前準備としてビジネスマナー講習会や就業体験の目標設定、企業研究、就業体験の振り返りとして目標達成度の評価やレポートの作成、発表などを行います。 なお、この科目は学外での体験だけでなく、学内での事前授業、事後授業、キャリア実習報告会を通して就業体験と大学での学習を統合し、将来設計について主体的に考えることを目指すものです。 ・学生提案型 1チーム3～5名程で各企業を担当し、教員及び企業担当者の指導の下でグループワーク、様々な場面でのフィールドワーク（現地調査）、そして企業に対する提案（プレゼンテーション）を行うことが主な授業の形式となります。そして、「Plan（計画）→Do（実行）→Check（検証）→Action（改善）」を社会の現場で実践することにより、社会人基礎力の醸成を図ります。	

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	キャリア実習B		<p>本科目は、樟蔭教養科目のうち、キャリアに関する科目です。</p> <p>・就業体験型</p> <p>本科目は企業、行政機関、NPOなど実社会での2週間程度の就業体験と事前授業、事後授業、レポートの作成、発表などを中心として展開される授業です。就業体験の事前準備としてビジネスマナー講習会や就業体験の目標設定、企業研究、就業体験の振り返りとして目標達成度の評価やレポートの作成、発表などを行います。</p> <p>なお、この科目は学外での体験だけでなく、学内での事前授業、事後授業、キャリア実習報告会を通して就業体験と大学での学習を統合し、将来設計について主体的に考えることを目指すものです。</p> <p>・学生提案型</p> <p>1チーム3～6名で各企業を担当し、教員及び企業担当者の指導の下でグループワーク、様々な場面でのフィールドワーク（現地調査）、そして企業に対する提案（プレゼンテーション）を行うことが主な授業の形式となります。そして、「Plan（計画）→Do（実行）→Check（検証）→Action（改善）」を社会の現場で実践することにより、社会人基礎力の醸成を図ります。</p>	
	キャリア実習C		<p>本科目は、樟蔭教養科目のうち、キャリアに関する科目です。</p> <p>・就業体験型</p> <p>本科目は企業、行政機関、NPOなど実社会での2週間程度の就業体験と事前授業、事後授業、レポートの作成、発表などを中心として展開される授業です。就業体験の事前準備としてビジネスマナー講習会や就業体験の目標設定、企業研究、就業体験の振り返りとして目標達成度の評価やレポートの作成、発表などを行います。</p> <p>なお、この科目は学外での体験だけでなく、学内での事前授業、事後授業、キャリア実習報告会を通して就業体験と大学での学習を統合し、将来設計について主体的に考えることを目指すものです。</p> <p>・学生提案型</p> <p>1チーム3～7名で各企業を担当し、教員及び企業担当者の指導の下でグループワーク、様々な場面でのフィールドワーク（現地調査）、そして企業に対する提案（プレゼンテーション）を行うことが主な授業の形式となります。そして、「Plan（計画）→Do（実行）→Check（検証）→Action（改善）」を社会の現場で実践することにより、社会人基礎力の醸成を図ります。</p>	
(専攻科目)				
基礎科目	知への扉	○	<p>多様な専門分野（人文学、社会科学、自然科学）から知識とは何かについての講義をオンデマンド方式で行います。講義では、各領域において、現時点の認識や知識が生まれてきたプロセスをナビゲートします。オンデマンドビデオの視聴を繰り返し、それぞれの領域における知識やその構成過程の特徴に目を向けようとする姿勢を持つるようにします。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 辻 弘美／3回) 第1回：オリエンテーション 第10回：社会心理学 第15回：まとめ</p> <p>(3 白川 哲郎／2回) 第2回・第3回：歴史学</p> <p>(11 小森 道彦／2回) 第4回・第5回：人文学</p> <p>(6 久島 桃代／2回) 第6回・第7回：地理学</p> <p>(2 佐久田 祐子／1回) 第8回：健康心理学</p> <p>(12 川上 正浩／1回) 第9回：認知心理学</p> <p>(4 門 正博／2回) 第11回・第12回：天文学</p> <p>(29 豊島 久美子／1回) 第13回：音楽</p> <p>(5 中川 明子／1回) 第14回：数学</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	知の技法	○	<p>「知」は情報であり、生成・精製されなければなりません。本授業では、こうした「知」を生み出すための技法、知を蓄積していくための技法について、様々な学問領域を横断的に捉え、理解することを目的とします。自らの「問い」を立て、その問いに対する「解」を「知」として生み出す過程、すなわちプロダクトとしての「知」そのものではなく、それがどのように生成・精製されたものであるかという「過程」を理解してもらいたいと思います。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(12 川上 正浩／3回) 第1回：イントロダクション 第14回：推論の技法 第15回：まとめ</p> <p>(1 辻 弘美／2回) 第2回：仮説生成の技法 第5回：実験の技法</p> <p>(3 白川 哲郎／1回) 第3回：文献研究の技法</p> <p>(2 佐久田 祐子／3回) 第4回：調査の技法 第6回：観察の技法 第13回：シミュレーションの技法</p> <p>(30 呉 知恩／2回) 第7回・第8回：インタビューの技法</p> <p>(6 久島 桃代／2回) 第9回・第10回：フィールドワークの技法</p> <p>(4 門 正博／2回) 第11回：比較の技法 第12回：計算の技法</p>	オムニバス方式
	科学的方法の理解	○	<p>ガリレオは地上での物体の落下実験とその解析を行い、自由落下の法則を導きました。ケプラーは天体の運動を分析して、三法則を得ました。ニュートンはそれらを統合し、万有引力の法則と運動法則にまとめました。ここから近代自然科学が始まったとされています。</p> <p>その後、多くの人が、対象を広げながら、様々な自然現象から、正しくデータを取得（観察）し、また、正しく働きかける（実験）ことによって自然科学は発展し、現在に至ります。先人によるこれらの活動の中からいくつかを選び、それぞれの人が、どのような背景で、どのように問題に対峙して解決していったかをたどることで、科学的方法についてみていきます。最後に、科学を営むのは人間であり、その責任を含めて、社会との関わり方についても考えます。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(① 門 正博／8回) 第1回：イントロダクション：科学とは何か 第2回：ガリレオと観察の重要性 第3回：ニュートンと科学的理論の構築 第6回：ダーウィンと進化論 第7回：アインシュタインと相対性理論（思考実験） 第8回：ボーアと原子モデル、モデル化とシミュレーションの役割 第10回：ホーキングとブラックホール 第15回：科学の未来と現代の科学者</p> <p>(② 中川 明子／2回) 第4回：オイラー、ラグランジュによる解析力学 第12回：再現性と信頼性</p> <p>(⑤ 高田 定樹／2回) 第5回：ラヴォアジエと化学の基礎（実験と検証） 第13回：科学と技術</p> <p>(⑥ 一條 知昭／1回) 第9回：ワトソン、クリックと遺伝学の進展</p> <p>(③ 川上 正浩／1回) 第11回：ボアの反証可能性</p> <p>(⑧ 森 正憲／1回) 第14回：環境と科学</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
PBL科目	実践演習基礎 (Human)	○	「心の科学をダイジェストする」をテーマとし、大学生が作った高校生のための心理学テキスト作成をします。学生目線での切り口で人間理解に関する多様なテーマをコミック的に説明する作品制作という具体的課題を設定します。これらの課題を完成させるために、学生が、学生や高校生を意識した興味のもてるテーマをコレクションし、それらについて具体的な文献研究を踏まえてその内容の解釈を行います。学びの成果を、高校生読者を意識したテキスト作品として表します。	
	実践演習基礎 (Society)	○	地域や社会について学ぶための方法や姿勢について、その基礎を学びます。講義の前半では、その模擬的なモデルとして、自らが所属する大阪樟蔭女子大学を対象に考察、検討を実践します。さらに後半では、各自が対象とする地域を仮に定め、その地域について図書館やインターネットを利用して各種の情報を収集し、それら整理することで、ある地域の魅力や価値の探索を実践します。そして、前半・後半ともに、自らが収集した情報に基づく報告を作成し、発表することにより受講生全体で共有しながら、地域や社会の魅力や価値について見いだす方法を学ぶとともに、地域や社会で生きるこの意味についても考えます。	
	人間科学実践演習 I	○	学問は、必ずしも“学問”の領域のみにとどまるものではありません。心理学についても、その知見や手法は一般社会の中で実際に活用されています。本授業では、課題解決型のスタイルで、社会の中で実際に問題とされていることを取り上げ、それに取り組む手法としての心理学を実践的に学びます。質問紙調査や面接、観察や実験などを用いて購買行動や教育場面、公共の問題などを含めた“実際の”問題にグループで取り組みます。 本科目の前半は、複数の教員が個別のテーマを担当し、後半は複数の教員が共同で担当する実習となります。オリエンテーション (1回)、2つのテーマの実習 (4回) の後、実際にグループで問題を取り扱う実習 (9回) および最終まとめ授業 (1回) の計15時間において講習を実施します。取り上げる予定の個別テーマは以下の通りです。 ・社会の中の観察実践 (社会心理学) ・社会の中の実験 (認知心理学) これらの実習を踏まえて、実際に社会の中での問題解決にグループで取り組む実習を行います。 (共同/全15回) (2 佐久田 祐子・12 川上 正浩/1回) (共同) 第1回: イントロダクション 第6回～第14回: 社会の中で心理学を活用する 第15回: まとめ (2 佐久田 祐子/4回) (オムニバス) 第2回～第5回: 社会の中の観察実践 (社会心理学) (12 川上 正浩/4回) (オムニバス) 第2回～第5回: 社会の中の実験 (認知心理学)	共同
	地域課題実践演習 I	○	とらえようによって「地域」には、いくつものレベルや種類が存在します。そして、どのような「地域」にあっても、そこに関係する人々が大切に思う“価値”が存在しているはずで、その事実を思いを寄せ、その“価値”をそれぞれの地域の未来に活かすにはどうしたら良いかについて学んで行きたいと思えます。具体的には、全国の「まちづくり」や「地域づくり」の先進的な事例について演習形式で検討し、その成果や残された課題について、理解や認識を深めます。そしてその先に、受講生各自が関係する、どこかの「地域」を選び、その「地域」に関わる考察を試みてもらいます。授業の終盤では「まちづくり」や「地域づくり」の実践者を招き、活動のねらいや課題を直接伺い考える機会を設けます。	
	人間科学実践演習 II	○	本授業の課題解決学習では、卒業論文の基盤となる探求のテーマ決め、探求の方法の選定、実証可能なデータ収集からその解析にいたるまでを行う実践型授業です。本授業は、1・2年生で体験したPBLの実践版となります。卒業研究の一部分となることを意識する中で、大学の学びの集大成の一つとなる位置付けをしています。	
	地域課題実践演習 II	○	この授業では、春期の「地域課題調査実習」で得た調査結果をもとに、授業での発表を通して分析や考察を深めたいうえで、報告書の構想を練っていきます。最終的には、それぞれの地域の課題やそれに対する考えをまとめ、報告書として提出してもらいます。	共同
	人間科学キャリア実践演習	○	「学びの総括としての自分史」の作成と、就活に生かすための企業アピールできるプレゼンテーションを通して、コミュニケーションスキルを磨きます。具体的には、1年から3年の春期までに自分がつけた力を総括し可視化する自分史を作成します。その自分史をより効果的に他者に伝える工夫を考える中で、自分の成長を含めた自己アピールを具体化します。	

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	地域課題調査実習	○	これまでに学んできた地域研究、調査のための方法を用いて、受講生が選択した地域を対象に、その地域の特徴や魅力、そして価値などを見いだす演習を実施します。	共同
	卒業研究A	○	卒業論文作成のための指導を行います。卒業論文を執筆しながら、卒業論文中間発表および卒業論文発表会の準備を行います。テーマとしては、ヒューマンあるいはソサイエティのいずれかの領域のものとし、卒論でのアプローチとしては「実験」を中心としたものになりますが、内容によっては質問紙なども用います。	
	卒業研究B	○	卒業論文作成のための指導を行います。卒業論文を執筆しながら、卒業論文中間発表および卒業論文発表会の準備を行います。テーマとしては、ヒューマン、ソサイエティのいずれかとし、卒論でのアプローチとしては特に指定しません。	
	卒業論文	○	人間あるいは社会に関わるテーマについて課題を設定し、調査、実験等を実施したうえで、卒業論文を完成させます。	
人間を理解するための科目	心理学概論	○	心理学各分野の概要や目的について、3名の担当者が講義をおこないます。これにより心理学が取り扱う問題や各分野での研究成果をその方法論と関連づけたうえで、より広範かつ体系的に理解することを目指します。 (オムニバス方式／全15回) (20 山崎 晃男／5回) 心理学の歴史、感覚・知覚心理学、認知心理学、思考心理学 (1 辻 弘美／3回) 発達心理学 (2 佐久田 祐子／5回) 人格心理学、感情心理学、生理心理学、健康心理学、産業心理学 (4 永野 光朗／2回) 社会心理学	オムニバス方式
	心理学研究法	○	人間が最も興味をひかれる対象は人間であり、その人間を科学的に扱う学問が心理学です。人間は科学的に全てが割り切れるものではないが、現象の解明には科学的な方法が必要とされます。本授業では、人間理解の科学としての心理学について、その研究方法の部分を概説します。	
	心理学実験	○	本実習では、受講生一人ひとりが実験者や実験対象者となって実際に実験を実施してデータを収集し、そのデータを使って心理学実験レポートを作成します。4名の教員がそれぞれ異なる実験テーマを設定し、グループで実験テーマをローテーションしながら受講します。各授業回は、2時間連続授業隔週開講となります。次のテーマを予定しています：大ききの知覚（辻弘美）、認知的葛藤（佐久田祐子）、ワーキングメモリ（小野由莉花）、記憶の系列位置効果（鈴木直人）	共同
	心理研究法演習（面接・観察）	○	人間の行動と心を理解するために必要なデータを、面接法や観察法を用いて収集する技法を具体的な演習を通して習得します。具体的に次の内容を含みます。 ・面接法および観察法それぞれの活用事例を通して、データ収集手法としての長所と短所について理解を深めます。 ・面接法および観察法をそれぞれ体験し、科学的に妥当性、信頼性の高いデータ収集にむけた面接者、観察者としての役割を認識します。 ・面接法や観察法を用いてデータを収集および分析し、簡単な仮説検証を行います。	
	心理調査基礎実習		心理学の研究においては、調査法はもともとスタンダードな方法です。心理調査法は人間あるいは心をデータ化し、理解するための方法であり、このための知識と技能を習得することが心理学を理解するためには不可欠です。本授業では、人間理解の方法としての心理調査について、実践的に学びます。	
	知的生産とクリティカル・シンキング		クリティカルシンキング（批判的思考）とは、他者の話を理解したり、自分自身の思考過程をトレースしたりする際に有効となる、「合理的に考える」思考方法です。本授業では、心理学その他の題材を用いて、クリティカルシンキングを実践的に学びます。	

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	脳科学とその応用		ビジネスにおいて、人間、そしてその司令塔とも言われる脳の理解を科学的に行なうことの重要性が認識されています。欧米を中心に、自動車、食品、化粧品、スポーツ、エンターテインメント等、様々な産業分野で、また、マーケティング、研究開発は言うに及ばず、経営企画、人材育成等、人に関わるあらゆる領域でその知見が活用されています。 人間、そして脳については、未知のことが圧倒的に多いです。しかし、ITやAIの進化もあり、人間、そして脳の様々な機能や働きが科学的にわかってきていることも色々あります。 脳科学（神経科学）、心理学、生理学、行動科学、AI等、学際的な観点から融合的に人間、そして脳を理解すること（ここでは応用脳科学という）によって、実社会で、その知識、考え方を様々な場面で活用することが可能になります。本講義では、包括的に脳、心、そして人間について学びます。	
	消費者行動論		消費者行動の理解はマーケティング戦略の検討に不可欠であるだけでなく、消費社会に生きる私たちの行動や生活を考えるためにも欠かせません。消費者の日常的な行動への理解を深められるよう、消費者行動に関してこれまでにどのようなことが明らかになっているかを説明します。	
地域を理解するための科目	世界の中の日本	○	この授業では日本の様々な地域の特徴を理解し、こうした特徴がなぜ・どのように生じているのかを、日本という国家や海外の国々とのグローバルな関係などの広い視点から学んでいきます。さらに授業の後半では、地域ごとの特徴が生まれるプロセスを学生たち自身が調べ考える時間を設けます。	
	社会とコミュニケーション		音楽は人類社会における普遍的な文化であり、重要なコミュニケーション手段です。 近年、音楽学、心理学、社会学のほか、脳科学、医学、生理学などの分野からの学際的な音楽研究により、音楽が人の身体と心に働きかけ、情動を喚起し、人と人との結びつきを強め社会の紐帯を保つ機能を有していることが明らかになってきました。 この授業では、講義に加え、音楽という協同活動を通じて、音楽による心への影響、とりわけ対人関係等の社会性への影響について学び、それによって自分と他者、さらには人が集まって形成される社会についての理解を深めることを目的とします。	
	家族関係論		この授業では、戦後日本の家族について主に家族社会学の視点から学びます。 家族社会学の理論や統計的資料等を用いて、家族の変化およびその社会的背景について理解を深めます。 適宜、新聞記事や映像資料を紹介し、実際の事例に対する細やかな視点をもつことを重視します。	
	東大版学	○	本学が所在する東大版は、本学に集う私たちにとって共通の“ホームタウン”とも呼ぶべき地域です。その東大版を対象として、“地域”について学ぶことの意味やその目的、そして“地域”について考える際に留意すべきことなどについて学びます。 また、授業では、この東大版で生活し、あるいはさまざまな活動を展開されている方や組織の方々、また東大版市の職員の方をお招きして、直接お話をうかがい、それらのみなさんとの対話も深めます。そうしたプロセスを通して、東大版という“地域”の特色や有する価値を理解するとともに、東大版という“地域”の諸課題についても認識することで、「地域に生きる」ことや「地域で生きる」ことの意味について考える手がかりを得ることを目指します。	
	文化政策学		本科目では、「文化政策」を広く「市民社会を生きる人びとの“幸せ”の実現を目指す価値や方策を体系化して、市民社会のグランドデザインを構想すること」ととらえます。そして、「文化」や「政策」といった用語から直接に連想される「芸術文化」や「行政」のみならず、社会意識や社会構造をも射程に、政治学、経済学、社会学、都市計画、あるいは芸術研究等々さまざまな視野から、単なる経済的な“豊かさ”にとどまらない、人びとの“幸せ”を実現するための理論や方策についての学びを、講義とディスカッションにより深めて行きます。	
	文化遺産論	○	文化遺産と呼ばれるモノや場所は、はじめから文化遺産だったわけではありません。文化遺産が生まれる背景には、ナショナリズム（国民意識）の高揚、過去への欲望、あるいは「過ちを繰り返さない」という未来への願いがあったりします。文化遺産が生まれ、保存され、活用されるプロセスには、文化遺産を取り巻く社会のあり方が深く刻まれています。この授業では様々な文化遺産の事例から、現代社会の姿を考察していきます。	
	国際関係論		本授業では、国家と多様な政府・非政府機関から成る国際社会の相互関係を学びます。それを通じて私たちが生きている今日の世界の特徴を理解するとともに、国際社会と日本、および自己との関係について考察します。	

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ソーシャルデザイン		社会における価値や課題に対して、ソーシャルデザイン、コ・デザイン（共創）、リビングラボの視点から多角的に考察する力を養います。最終的には、価値創出・課題解決に際して多角的な観点から論理的で柔軟な発想ができるようになることを目標とします。本講義は講義とワークショップで進められます。講義では、概論の他、地域の現場での実践事例共有とそれに関わるテーマ討議に取り組み、ワークショップではグループに分かれてソーシャルデザインのプロセスを体感し、学びを得ます。	
	行動経済学		経済学における人間観は、「自己利益を追求し、かつ、合理的に行動する」とするものです。しかしながら、実際には、自己利益を目の前にして、合理的に行動することが難しいのが人間です。現実の人間が、どのように行動するのか、特に心理学的な視点も含め人間の行動に対する理解を深め、こうした行動が経済にどのような影響を及ぼすのか、について考えるのが行動経済学です。本授業では、「新しい」経済学である行動経済学について理解を深めることを目的とします。	
データスキル科目	プログラミング演習 I		演習 I の目標はプログラミングの全体像を明らかにし、理解を深めることです。具体的にはプログラムを実行するコンピュータの仕組みとその利用方法について、そしてコンピュータ上で動くプログラムを作成する言語の種類及び特徴等の知識を習得します。さらには初歩的なプログラミング演習を行うことにより動作の確認を行うものです。	
	プログラミング演習 II A		近年、情報技術が急速に発展し、すべての職種でその一定の理解と習熟が求められるようになってきました。具体的には、ビジネス分析、データ管理、Webサイトの制作など、多岐に渡る職種でプログラミングスキルが必要とされています。特に、未来の社会をリードする女性たちにとって、プログラミングスキルは不可避のキースキルとして重要視されています。プログラミングを学ぶことで、論理的思考や問題解決能力を身につけることができます。これらのスキルは、どの学問分野でも、そしてジョブマーケットでも非常に重要なものです。さらに、プログラミングスキルはデジタル時代にある我々の日常生活の理解を深め、身の回りの技術をより理解し活用できるようになります。Pythonは、そのシンプルさと高い柔軟性から、初めてプログラミングを学ぶ人々にとって理想的な選択です。本講座では、Pythonの基本的な文法や制御構造、データ構造、関数などについて学びます。また、演習問題を通じて、プログラミングの基礎的な考え方を身につけることを目指します。	
	プログラミング演習 II B		プログラミング演習 II A で学習した知識を活用し、応用的なプログラムの作成を行います。実践的な演習問題により、受講生の理解度を確認し、定期的にフィードバックを提供します。 【主たる内容】 ・ファイル入出力 ・例外処理とエラーハンドリング ・プログラミング設計 ・総演習 (Pythonによるファイル操作、EXCEL操作)	
	社会調査概説		社会学の研究方法である社会調査とは何かについて理解してもらいます。社会調査の基礎知識として社会調査の目的、社会調査の種類と調査方法などを学び、資料の検索方法と利用法、データの読み方についても実際の調査報告書や各種調査資料を用いて学ぶことにより、情報収集のスキルを身に付けます。	
	社会調査の方法		学習の過程では単なる理論的知識だけでなく、学生自身が実際に調査を行なえるようになることをめざし、具体例を取り上げながら概説します。まず、経験的社会科学としての社会学の研究方法である社会調査法とは、どのようなものかを解説します。そこで解説した前提に立った上で、社会調査法の中でも、質問紙を用いた調査法を中心に取り上げ学習します。	
	サイバーセキュリティ		サイバーセキュリティ概要の目標はセキュリティ全般へのリテラシーを高め、社会生活における注意点を把握し、安全に仕事や生活を送ることができることです。また、ブロックチェーン等の暗号化技術の概要、及び仕組みを理解してインターネットでの活用を理解できるようにすることです。具体的にはセキュリティの定義、種類、特徴、そして重要性を習得し、セキュリティに使用される技術、国際標準と、更にはビジネスシーンに使用されるケースについても考察を行います。	
	科学的思考実験		デジタル技術の発展と情報量の増加に伴い、現代社会ではデータを効率的に活用することがますます重要になっています。一方、ビジネス戦略の立案から製品開発、マーケティングまで、あらゆる分野でデータの活用が求められています。データ活用により、客観的証拠に基づく意思決定が可能となり、リスクを低減し、プロジェクトや組織の成果を向上させることが期待できます。進化を続ける社会の中で、適切なデータ活用能力は個人のキャリアにも組織の成長にも必須となります。本講座では、データ活用に必要なデータの可視化、データ分析等の基礎を学びます。データ分析に必要なプログラミング言語の基礎と、データの見える化のための可視化技術、そしてそれらをどのように実際の問題解決に活用するかを実際のデータ処理の演習を通して学びます。	

授 業 科 目 の 概 要				
(学芸学部リベラルアーツ学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	基礎統計学	○	現代は「エビデンス」を求められる社会です。「エビデンス」は数値で示されることが多く、その数値は、各種の調査や実験などによって得られたデータがもとになっています。これらのデータを処理するために「統計学」があります。 記述統計：データを整理し、その分布の特徴を明らかにする方法と、それを表す各種の数値を導き出す方法を学びます。 推測統計：得られたデータがある集団からの標本である場合には、確率分布の考えを用いて、元の集団（母集団）に関する情報を引き出します。実験なども用いながら確率分布について理解し、その確率の考え方を用いて、推定、検定に関する基本的な概念を学びます。	
	データ解析の基礎	○	質問紙を用いた調査データや各種の統計調査データなどの量的なデータを対象とした基礎的なデータ解析についての解説を通して学習していきます。 単なる理論的知識だけでなく、学生自身が実際に調査を行ない、結果の分析を自ら進められるようになることを目指しています。 データおよびPCを用いて授業を進めていきます。	
	量的データ解析実習		社会調査法の中で、質問紙を用いた調査データや各種の統計調査のデータなどの量的なデータを対象とした基礎的なデータ解析より、さらに進んだ各種の技法について解説し、学習します。単なる理論的知識だけでなく、学生自身が実際に調査を行ない、結果の分析を自ら進められるようになることをめざし、データおよびPCを用いた演習・実習形式で授業を進めます。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人樟蔭学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大阪樟蔭女子大学					大阪樟蔭女子大学				
学芸学部					学芸学部				
					<u>リベラルアーツ学科</u>	<u>40</u>	-	<u>160</u>	学科の設置(認可申請)
国文学科	60	-	240		国文学科	<u>40</u>	-	<u>160</u>	定員変更(△20)
国際英語学科	40	-	160	→	国際英語学科	<u>30</u>	-	<u>120</u>	定員変更(△10)
心理学科	80	-	320		心理学科	<u>60</u>	-	<u>240</u>	定員変更(△20)
ライフプランニング学科	60	-	240		ライフプランニング学科	<u>40</u>	-	<u>160</u>	定員変更(△20)
化粧品ファッション学科	140	-	560		化粧品ファッション学科	140	-	560	
児童教育学部					児童教育学部				
児童教育学科	120	-	480		児童教育学科	<u>50</u>	-	<u>200</u>	定員変更(△70)
健康栄養学部					健康栄養学部				
健康栄養学科	160	-	640		健康栄養学科	<u>100</u>	-	<u>400</u>	定員変更(△60)
計	660	-	2,640		計	500	-	2,000	
大阪樟蔭女子大学大学院					大阪樟蔭女子大学大学院				
人間科学研究科					人間科学研究科				
臨床心理学専攻	8	-	16		臨床心理学専攻	8	-	16	
人間栄養学専攻	8	-	16		人間栄養学専攻	8	-	16	
化粧品ファッション学専攻	10	-	20		化粧品ファッション学専攻	10	-	20	
計	26	-	52		計	26	-	52	